

令和元年を振り返って

小城高等学校長 永田 彰浩

天皇陛下の即位に伴う「即位礼正殿の儀」及び「祝賀御列の儀」も滞りなく終了し、いよいよ「令和」時代が本格的に動き出した。

「令和」とは令（うるわ）しく平和を築いていくという合言葉であり、この元号には一人ひとりの日本人が明日への希望を抱き大きな花を咲かせて欲しいという願いが込められている。平成から令和へ、世の中はこれからどのように変わっていくのだろうか。

Society5.0の実現、SDGs、シンギュラリティ、グローバル経済と国際競争力の激化、少子高齢・人口減社会の到来、被災地の復興等、多く問題が平成から令和へ先送りされている。これらの問題は明快な解答が見出せない深刻な問題である。私たちは、これらの問題を抱えて、今後に難しい対応を迫られることになる。

現在、幕末・維新以来の大教育改革である「高大接続改革」が待ったなしで進められている。だが、ここに来て、大学入学共通テストへの英語民間検定試験や、国語と英語の記述式問題の導入が見送られる等、制度設計上の問題点が相次いで浮き彫りとなり、改革は足踏み状態である。このような教育界の混乱にも見て取れるように、世の中は激しく変化しており、先行き不透明で混沌とした状況である。

現代社会を生き抜くキーワードは「変化」である。「平成」から「令和」への改元を機に、各界より、良好な社会の実現を期待する声が一斉に上がった。とりわけ時代を創る新しい力が育つこと、及びその力を結集してイノベーションを起こすことに大きな関心が集まっている。「今を続けることではなく、変わることの意味がある」（環境大臣：小泉進次郎）、「何よりも変わる意思と力を持った新しい日本人が求められる」（作家：高村薫）、「歴史の流れは決して途切れることはない。今後も押し寄せる巨大な変化に適応するため

のしなやかさと辛抱強さが求められる」(毎日新聞社説)。

学校現場において、時代の変化に順応しつつ、住みよい社会を実現する新しい力をどのように育てていけばよいか。小城高校ではそれを「オンリーワン」と名付け、学習活動・部活動・生徒会活動・ボランティア活動等、教育活動全体を通して養っている。本校は平成8年度より「特色ある普通科高校づくり事業」の一環としてオンリーワン事業を推進してきた。特に平成29年～30年の2年間は、県教委の「新学習指導要領研究指定校」として、「総合的な学習の時間」を中心に実践してきたオンリーワン活動の全面的な見直しを行った。そして、「オンリーワン」こそが新しい世の中を創り出す原動力であるとして、活動の目標・内容・方法等をニーズに即して修正した。

本校は創立120周年に当たり、生徒や職員による参加型の記念事業に取り組んできた。生徒の手による創立120周年記念ロゴマークやファーストバッグの製作、女子用制服のスラックス及び体操服の新調、職員バッジの製作等に取り組んだ。そして創立120周年を機に、決意新たに、師弟同行、教育改革期のフロントランナーを目指して新たな一歩を踏み出した。令和2年度もまた、今年度と同様に本校教育の「不易」と「流行」に沿いながら、持続可能な魅力ある学校づくりに邁進する。